

JPP-NETヒメトビウンカ飛来予測システム

ヒメトビウンカの飛来が予測されると、県ごとに飛来時期と飛来地域の予測情報が電子メールで提供されるシステム

研究開発の背景

- ・イネの重要害虫であるヒメトビウンカは、イネ縞葉枯病の病原ウイルスを媒介する。
- ・2008年6月に殺虫剤に抵抗性を持ったヒメトビウンカが海外から多量に飛来し、長崎県、山口県、島根県でイネ縞葉枯病が多発した。
- ・被害リスクの低減のために、ヒメトビウンカの飛来を予測し、事前に病害虫防除所に通報することが必要である。

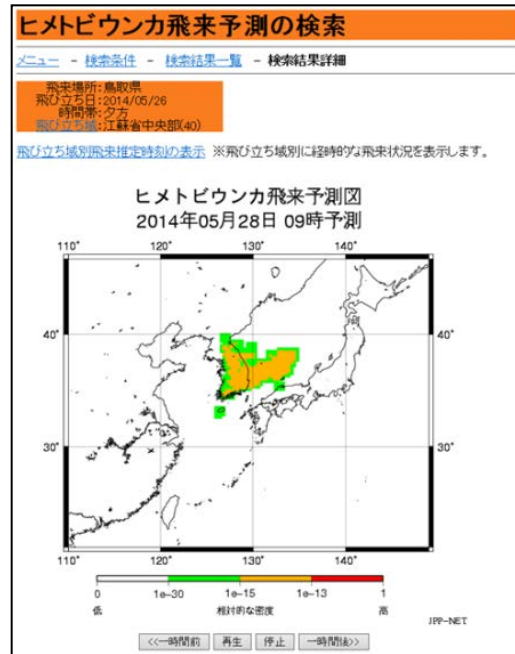
研究成果の内容

虫の飛び立ち行動を解明し、飛来予測モデルを開発

・虫の飛び立ち時間や風向風速データなどを用いてヒメトビウンカの**海外からの飛来を計算する飛来予測モデル**を開発した。予測的中率は93%である。

・日本植物防疫協会のインターネットデータベースサービスJPP-NETで飛来情報を提供。

・ヒメトビウンカの飛来があらかじめ登録された県に予測されると、**電子メールで利用者に通知され、予測される飛来時期と飛来地域が提供される。**



導入メリット

予測情報よりヒメトビウンカの飛来を警戒できる

西日本(九州、中国、四国、近畿)の約78万haの水田について飛来警戒ができる。

圃場での発生情報と組み合わせることで、
・**薬剤選定と防除時期の決定**に利用できる
・**ひこばえと雑草の管理指導**に利用できる
これにより**イネ縞葉枯病の防除対策**に貢献する。

利用状況

・飛来時期・地域の飛来予測情報は西日本を中心とした全国の病害虫防除所が利用中。
・現在、**35県36機関、1政府行政機関、1国立研究開発法人がメールアドレスを登録し、飛来予測メールを受信している。**これらはヒメトビウンカの主要飛来地域をカバーしている。

期待される効果

・適切な薬剤選択などを通じて飛来後の害虫管理に貢献する。水稻の生産安定化に貢献。

導入をオススメする対象
飛来リスクのある西日本を中心とした病害虫防除所など。